

(事後評価)

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

(実施期間：令和元～令和6年度)

代表機関：日本医科大学（総括責任者：弦間 昭彦）

共同実施機関：日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社

取組の概要

1. 「いのちのつながり」を柱とした研究の推進と女性・若手研究者キャリア支援

女性・若手研究者の視点で生命現象を捉え、病因・病態の解明や疾病予防、健康寿命の延伸を主眼においた研究を推進する。産学連携を支援し、研究成果の早期実用化を促す。リーダーシップ養成セミナーを共催し、学協会における理事・会長への就任、政府諮問機関等への参画を目指す人材を育成するとともに、上位職への登用を行う。

2. 「いのちのつながり」講座によるワーク・ライフ・バランス意識改革

種の多様性は生態系の安定に必須である。生命科学研究に取り組む女性・若手研究者が、一般社会に向けたアウトリーチ活動を通じて「いのちのつながり」がダイバーシティの具現化に必須であることを解説し、ワーク・ライフ・バランスの意識を高める。これらの取組を通じ、多様なヒトと動物、環境の多様な生命との共生を目指す、一歩進んだダイバーシティ環境の実現を目指す。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

医科大学、獣医系大学、エイジングケア企業の3機関が連携し、「いのちのつながり（One Health）」をテーマに据え、医療・生命科学分野における女性研究者の活躍を促進する明確な枠組みを示し、各機関の課題に即した様々な取組を実施した。女性研究者を取り巻く研究環境整備に加え、女性研究者の研究力の向上や産学連携の促進を目指し、女性研究者を研究代表者とする産学連携共同研究を支援した。女性研究代表者の研究業績が大幅に向上し、上位職への登用へ繋がったことは評価できる。また、代表機関の学長のリーダーシップの下、女性研究者のキャリア形成に焦点を当てた独自の人事制度として「教育担当女性講師・准教授」ポストを設置し、キャリアデベロップメント制度として「女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト」を創設し、女性研究者の上位職への登用を促進した。連携する2大学で、合わせて女性研究者185名が昇任する高い成果を挙げた。今後は、代表機関において未達であった女性研究者在職比率に係る目標の達成へ向け、実効性の高いポジティブ・アクションを実施することを期待する。

- ・ **目標達成度**：女性研究者の上位職登用が積極的に進められ、女性上位職比率が目標値を上回り大幅に上昇したこと、女性研究者の採用比率に係る目標が概ね達成できたことは評価できる。しかしながら、代表機関において女性研究者在職比率に係る目標が達成できておらず、また、

共同実施機関の企業において女性研究者数に係る目標が達成できていない。今後は、目標が達成できなかった要因を分析し、実効性の高い改善策を実施することにより早期に目標を達成することを期待する。

- **取組**：研究環境整備や復帰・復職支援の取組に加え、「いのちのつながり（One Health）」をテーマに据え、医療・生命科学分野の女性研究者の研究力の向上、上位職登用を目指し、産学連携共同研究の支援、「教育担当女性講師・准教授」ポストの設置、「女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト」の創設など特色ある取組を構築し高い成果を挙げたことは評価できる。
- **取組の成果**：研究力向上、上位職登用へ向けた実効性の高い取組の実施により、女性研究者の論文発表数が倍増し、185 名が昇任を果たしたことは評価できる。また、代表機関においては、機関初の女性理事が誕生しており、マネジメント層における女性の今後の活躍が期待できる。
- **実施体制**：連携する 3 機関の学長、研究部長、実施責任者等から成る「One Health 実行委員会」を創設し、「しあわせキャリア支援センター」や連携する各機関に設置された「ダイバーシティ推進委員会」と密接に連携し事業を円滑に推進したことは評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：3 機関の連携体制を維持し、これまで実施した取組を継続するための財源として、自己資金や「ダイバーシティ推進募金」を活用する仕組みを構築しており評価できる。また、「女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト」については、連携する機関を拡大し、さらに取組を発展させていく計画であり今後は期待できる。